

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

美祢市長 篠田洋司

市町村名 (市町村コード)	美祢市 (35213)
地域名 (地域内農業集落名)	別府地区 (河原上・水上・前水上・流田・桧皮・門村・中村・平野・共栄・江良・真木・江原上・江原下・芹田・湯ノ上)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月5日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

(江原・芹湯・堅田)

限られた担い手に集積・集約するのは困難なうえ、耕作者だけが水回り、草刈り等の作業を負担することは限界。地権者にも管理の分担が必要である。

(下嘉万)

法人や認定農業者等の経営体が耕作している地域ではあるが、複数の地区(嘉万・青景・別府)が入り組んだ地域であるため集積・集約の調整が難しい。ほ場整備を平成初期に実施。経年劣化から畦畔が痩せ、水路の漏水が著しいため、耕作範囲を限定した施設管理が必要。特に山際は獣害防止柵や水路の整備が必要。厚東川沿いは獣害防止柵が設置されているが地域の西側は未設置。秋吉台側からのイノシシ被害も目立つ。

(梨組合)

後継者等に引き継がれているものの規模は縮小化。個々の負担は大きくなり新規就農者の獲得や育成が必要。地区外から新規就農者、梨生産農家を流動させた実績はあるものの、反面、やめる就農者も多いため定着化の取り組みが課題。

(2) 地域における農業の将来の在り方

高齢化や後継者不足により将来的に担い手が不足することが懸念されているが、今後も法人と認定農業者が連携して地域農業の継続と発展に取り組んでいく。法人・認定農業者を核とした連合体への作業受託、農業機械の共同購入・利用等を通じて、集落全体の生産費のコストダウンと労力の軽減等を図る。水稻・麦・大豆・酒米の作付けを推進し、水田活用直接支払交付金や多面的機能支払交付金を活用し、安定的な経営の継続を図る。山際の農地など条件の悪い圃場の維持管理は困難であり、ほ場整備済みの農地や用排水施設が整備されている農地を中心に農地保全に取り組む。次世代向けに野菜等の新たな品目を増やし、地域の代表的な作物を目指し、山田錦等の酒米を生産を進める。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	303 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	303 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、当面の間は目標地図の区域において農業上の利用が行われることを基本とする。なお、保全・管理を行う区域は関係者協議のうえ、必要に応じて適切に設定する。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
継続協議
(2)農地中間管理機構の活用方針
継続協議
(3)基盤整備事業への取組方針
継続協議
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
農地集約を前提に地域内の人材だけでなく、周辺地域の法人や若い農業者など引き受け手を探る。梨づくりにおいて定期的な園地作業に人材が必要なため学生等を取り込みたい。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
継続協議

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①下嘉万地区の梨園側と秋吉台側の獣害防止柵の設置。
- ③ドローンやラジコンヘリによる防除を実施中であるが、引き続き、省力化に向けたスマート農業の導入を検討。
- ⑤園地はあるので、新規就農者と指導する人材を確保し、園地の継承体制を確立する。